

学徳と法勲を讃える

学頭 里 見 泰 穂

林是幹教授の学徳をたたえて「棲神」を古稀記念号として発刊し、先生の法勲に感謝の意を表することになったことは、喜びに堪えません。

四十数年の長い間、孜孜として学生の指導に尽くされた教育者としての功績は言うまでもありませんが、その間つねに宗門史、特に身延山史の開明に意をそそがれ、史料の蒐集保存に対する熱意は、建築学界の注目を引く程の立派な収蔵庫の建立を推進し、完成するに到りました。この収蔵庫は今後、身延山史研究の中心となることは勿論、宗門史研究の一センターとなることと思います。その功はまことに大きいと言わねばなりません。又本学として忘れてはならないことがあります。戦後の荒廃していた校舎は四十二年に現在のように新築されたのですが、その端初をつくったのも先生であるということです。たまたま、当時久遠寺経理部長の要職にあった先生が校舎建築資金の予算を計上されたことが新校舎建築の大きな推進力となりました。忘れてはならないことと思います。此の記念号によって知友、同学門人の諸氏と共に慶祝の微意を捧げたいと思います。